

平成29年度 磐田市立長野小学校 学校評価書

A:90%以上、B:70~90%、C:69%以下

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察〇改善策※	学校関係者評価委員から
や さ し い 子	◎相手の気持ちを考え て行動できる子 ・学年または学級で「増や したい言葉(行動)」、なくし たい言葉(行動)」を考え、 掲示をして評価する ・さらさらタイムで思いやり のあった友達を紹介をし て、価値づける ・「命と言葉コーナー」や「あ りがとうカード」を活用して ほめる機会を増やすとともに 児童の気付きを育てる	あいさつや返事ができる	B	○今年度も「ありがとう」「ごめんなさい」とともに、「日本一のあいさつができる学校」を目指し、場を捉えて繰り返し指導してきた。学校全体で会釈をする習慣ができつつある。 ○学級で「増やしたい言葉(行動)」「なくしたい言葉(行動)」について話し合い掲示をすることで、視覚に訴えるだけでなく、ことあるごとに子供たちがそこに立ち戻り、考えることができた。 ○「一人もひとりにしない」という合言葉が子供たちにも浸透しており、様々な活動や指導の際、常にこの言葉に戻るようになってきた。また、学活や道徳の授業、人間関係づくりプログラム等を実施を通して、相手の気持ちを考えることで、互いに支え合う学級づくりにつながった。 ※気持ちのよい声で、自分から、笑顔で、を意識した「相手に伝わるあいさつ」を目指す。 ※学級で自分がされてうれしいことやいやなことを考え掲示し、やさしい言葉遣いや行動ができるようにする。(自分がされていやなことは人にしない) ※さらさらタイムで友達のおかげしたところを紹介し合うことで、子供のよい言動を価値付け、ほめる機会を増やすとともに、子供の気付きを育てる。 ※人に頼らず自分の意見を言う、いやなことはいやと言う、正しいと思うことを言うことが大切であることを機会を捉えて指導する。	・子供たちは校外や地域へ出ると一歩引いてしまい「日本一のあいさつ」についての意識が薄くなる。社会体育の場や地域でも「日本一のあいさつ」について子供へ投げ掛けていきたい。 ・「学校が楽しい」と感じている子が多く、たいへんうれしいことである。 ・「ふわふわ言葉」「ちくちく言葉」を掲示することにより視覚に訴え、学んでいくことはよい取り組みであるため、継続していくとよい。 ・昔はコミュニケーションは自然に学ぶことができたが、今はそれも学ぶ時代になっている。学校と地域・家庭で機会をとりあえて子供たちに学ばせ教えることが重要である。
		相手の目を見て「ありがとう」「ごめんなさい」が進んで言える	B		
		学校を楽しんでいる	A		
		友達にやさしい言葉遣いができる	B		
か し こ い 子	◎自ら考え、対話する子 を育てる ・ペアやグループで話し合 う場を設ける ・対話スキルを身に付ける ために「コミュニケーション 活動」を行う ・授業の終わりに、振り返り の時間を設ける	授業の内容が分かっている	A	○授業の中でペアやグループで自分の考えを伝える場を設けることにより、受け身ではなく全員が参加する授業づくりを心掛けた。「コミュニケーション活動」で発達段階に応じた、うなずく、言葉を返す、つなぎ言葉などを活用した対話スキルを学ぶことで、双方向の話し合いができるようになってきた。 ○終末に自分の学びを振り返る場を設けることにより、子供たちの学びの理解度を把握し授業に生かすことができた。振り返りの時間の確保について、今後も継続して取り組む。 ○家庭学習の取り組みについては、年度当初や懇談会などで手引きやガイドを参考に取るよう繰り返し啓発を行ったが、依然として個人差がある。 ※子供たちが「分かった・できた」という学びの実感もてるよう、学ぶ前と学んだ後の児童の変容を確認できるようにする。(ノート指導、ワークシート等) ※全員が参加しそれぞれが対話することで考えを広げたり、深めたりする授業を目指し、対話を活性化させる条件(発問、資料、話し合い形態、支援など)を用いた対話活動を行う。	・家庭学習について、今の子供たちは習い事も多く、決められた時間を確保するのが難しいのではないかと。学習の習い事の時間を含めれば、学習の時間が確保されているかもしれない。 ・家庭学習で行うべき基準として、学府共通のリーフレット「家庭学習の手引き」を活用するのはよい取り組みである。継続して保護者に投げ掛けてほしい。 ・学習のC評価については、子供と教師の評価数値の差が大きい。どんな姿や行動を判断基準としているのか子供に示し、すり合わせをしていくとよい。
		相手の話を聞き、反応する(うなずく、言葉を返す)ことができる	B		
		1時間の授業を振り返り、分かったこと、分からないことを言葉で表すことができる	C		
		決められた時間、家庭学習をしている	C		
た く ま し い 子	◎きまりを守り、自分の力を 高める子を育てる ・遊びの掲示や環境づくり をする ・養護教諭を中心に、手洗 い方がいの指導をする(発 達段階に応じて視覚化し、 インパクトを与える工夫を する ・集団登校のめあてを決め るとともに、評価項目を設 定して自己評価をさせる	よく外に出て元気に体を動かしている	B	○今年度も体力向上に向けての活動や行事(運動会・持久走・長なわ等)に対し、自分や学級の目標を立て、朝や休み時間を利用して、意欲的に練習に励むことができた。 ○バスケットゴールの設置や様々な遊びを紹介するなどの取り組みを行ったことで、子供たちは新たな遊びの楽しさにふれることができたが、「自分たちで工夫する」ことについて課題が残る。 ○通学班長会での指導や通学班会での自己評価の実施などにより、高学年のリーダーを中心に一人一人の意識付けをはかり、安全に集団登校ができた。一部ルールやマナーに欠ける行動も見られたため、ルールを教師・子供・保護者に示して指導を徹底した。 ※子供たちの遊びがサッカーに偏りがちなため、継続して様々な遊びの紹介や掲示をし、運動環境を整えることで遊びを通して総合的な体力の向上をはかる。 ※清潔検査などによる委員会や教師の呼び掛けのほか、カラー写真掲示等の視覚に訴え、手洗いがいの励行をする。	・運動会などの体育的行事でめあてに向けて子供たちが懸命にがんばる姿が見られた。個人だけでなく、チームとしての団結が感じられた。 ・放課後、外で遊ぶ子供たちの声が聞こえない。室内でゲームなど、帰宅後の子供の生活が変わっているため、学校で遊びを紹介するのはよい取り組みである。家庭に広がりをもたせたい。 ・遊び方を知らない子が多い。まずは多くの遊びを体験することで、自然に工夫した遊びにつながっていくだろう。
		子どもの体力向上に向けて行事や場の工夫をしている	B		
		工夫して様々な遊びや運動ができる	C		
		自分から手洗いがいができる	B		
家 庭・ 地 域 と の 連 携	◎きまりを守り、自分の力を 高める子を育てる ・遊びの掲示や環境づくり をする ・養護教諭を中心に、手洗 い方がいの指導をする(発 達段階に応じて視覚化し、 インパクトを与える工夫を する ・集団登校のめあてを決め るとともに、評価項目を設 定して自己評価をさせる	よく外に出て元気に体を動かしている	A	○総合的な学習、読書活動、登下校指導、放課後子ども教室での学習など、保護者や地域の方の協力に支えられて充実した活動ができています。今年度は、コミュニティースクールディレクターのコーディネートにより、静岡産業大学の学生等、さらに多くの方々の協力を得ることができた。今後も地域との結び付きを大切にしたい。 ○地域の歴史や自然に関心があると答える子は毎年少ない。しかし、龍門館から続く長野小学校の歴史や千寿の舞、米作りなど、地域教材と関わる機会は多くある。今後も地域とかかわりを持ち、子どもたちの意識が高まるような支援をしていきたい。 ※今後も保護者に教育内容の理解を十分はかるために、PTA総会や懇談会の際、学校の取り組みについての説明を行うとともに、学校便りやホームページでの情報公開を積極的に行う。	・学習の中で地域の歴史や自然、人とかかわることはたいへん有効である。地域に当たり前にある自然や歴史(千寿の墓、みどり十字機など)を教師も学び、子供に発信して、興味を持たせてほしい。 ・子供が「学びたい学校」、保護者が「通わせたい学校」、地域が「支援したい学校」という関係づくりをしていきたい。
		龍門館教育の伝統や地域を生かした特色ある教育活動を進めている	A		
		めざす子どもの姿や、取り組んでいる教育内容などについて知っている	A		
		保護者・地域の方に学校の様子などの情報公開を行っている	A		
本 校 の 教 育 活 動 に 関 心 が あ る	◎きまりを守り、自分の力を 高める子を育てる ・遊びの掲示や環境づくり をする ・養護教諭を中心に、手洗 い方がいの指導をする(発 達段階に応じて視覚化し、 インパクトを与える工夫を する ・集団登校のめあてを決め るとともに、評価項目を設 定して自己評価をさせる	子どもは住んでいる地域の歴史や自然について関心がある	B		

学校関係者評価を受けてのまとめ

本年度の教育活動について、参観会での子供たちの姿と学校評価の結果を通して、子供が生き生きと学校全体が落ち着いているという高い評価をいただいた。また、来年度の運営方針とともに、新学習指導要領移行期間に伴う今後の教育課程や行事内容等の検討について了承を得た。話し合いを通して、協議員の皆さんの「学校とともに地域でも子どもたちを育てていこう」という熱い思いが伝わってきた。保護者や地域の方、職員とが顔を合わせ会話が、学校を支えていただく第一歩となり、子どもたちが地域の中で豊かに成長することにつながると強く感じた。